

令和 7 年度日米優秀隊員表彰 Commendation for Koku-Jieitai & USAF Brilliant Soldier in FY 2025

令和 8 年 2 月下旬～3 月上旬にかけて、令和 7 年度 JAAGA 日米隊員表彰式が、三沢、横田及び那覇の各基地において行われた。本表彰行事は、空自と米空軍の友好親善と相互理解に貢献した隊員を表彰することを目的として平成 10 年度から行われているものであり、今回が 28 回目となる。これまでの被表彰者数は総計 206 名（空自 123 名、米空軍 83 名）を数える。

今回（令和 7 年度）は、3 基地すべてで祝賀会食を含む全行程の行事を執り行った。表彰式では、丸茂会長の挨拶に続いて日米の被表彰者に表彰状と記念楯が授与され、それぞれの功績が称えられた。各地区における表彰行事の概要については、以下のとおり。（伊藤理事記）

【三沢地区表彰式(Misawa AB)】

2 月 26 日（木）、令和 7 年度三沢地区 JAAGA 表彰行事が三沢基地米空軍ミサワクラブ（旧 NCO クラブ）において実施された。

三沢における表彰行事は、主催者となる丸茂会長、池添三沢支部長、山本三沢支部事務局長をはじめ JAAGA メンバー 5 名のほか、航空自衛隊から北部航空方面隊司令官 船倉慶太空将、第 3 航空団司令兼三沢基地司令 藤田輝章空将補、米空軍から第 35 戦闘航空団司令官 ポール・デイヴィッドソン大佐 (Col. Paul Davidson)、第 35 戦闘航空団先任下士官 ディヴィッド・ナヘラ最先任上級曹長 (CMSgt. David Najera)をはじめ日米双方約 30 名が出席された。また、三沢市防衛協会会長 相場 博氏はじめ三沢基地周辺協力団体の皆様のご臨席を賜り、総勢約 40 名が参加する盛大な式典となった。

令和 7 年度の米空軍被表彰者は、第 35 戦闘航空団司令官業務企画室長 エリカ・ウーレヴァー少尉 (2nd.Lt. Ericka A. Woolever)（当時）であり、航空自衛隊隊員等に対する「フレンドシップ・ツアー」プログラムを刷新したほか、三沢基地最大の二国間地域イベント「アメリカンデー 2025」の主任企画者として卓越したリーダーシップを発揮する等の功績が高く評価されての受賞となった。

また、航空自衛隊被表彰者は、北部航空警戒管制団北部防空管制群防空管制隊 白石華咲希 3 等空曹であり、米空軍第 610 管制隊と防空管制隊間の友好親善交流行事を企画・実行し部隊間の信頼醸成に貢献したほか、米太平洋空軍司令官他の部隊訪問に際し、状況説明資料の作成や通訳業務を実施し、円滑な部隊訪問に寄与する等の功績が高く評価されての受賞となった。

表彰式は、北部航空音楽隊による日米両国国歌の演奏から始まり、冒頭の丸茂会長の挨拶では、国際環境が急激に厳しさを増し日米同盟の重要性が益々重要になる中で、黙々と任務を果たしている日米両部隊への敬意と感謝、本表彰事業の意義、被表彰者への祝意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に三沢基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。挨拶に続いて丸茂会長から日米の被表彰者それぞれに表彰状と記念楯が授与され、その功績が称え

られた。

来賓祝辞においては、藤田基地司令から、被表彰者に対するお祝いと感謝の言葉とともに、「三沢基地は様々なイベントを通じて、日米隊員間の融和、親睦、相互理解を深め、日米両国の関係を強化している。今回表彰されたお二人を模範とし、今後もより一層強固な友情を築いて参りたい」旨の決意が述べられた。また、デイヴィッドソン司令官からは、被表彰者の活躍を讃え今後とも日米友好に尽力されることを期待する旨の発言があり、JAAGA が本表彰行事のほか、スペシャル・オリンピックスをはじめ日米の様々な活動を支援していることに対し感謝の意が述べられた。

表彰式後の祝賀会食においては、三沢つばさ会会長 山本方之氏の開会のご発声で和やかな食事会が始まり、三沢基地における活発な日米交流行事の話題などで祝宴が盛り上がった。会食の終盤には日米の被表彰者から挨拶があり、緊張した面持ちで、今回の受賞を光栄に思うこと、また、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も日米の友好関係強化につながる活動を続けていきたいとの抱負が述べられた。

会食の最後は、JAAGA 三沢支部長 池添孝史氏による英語のスピーチで締めくくられ、すべての行事が盛会のうちに終了した。

本行事の開催にあたって多大なるご尽力をいただいた日米三沢基地の関係各位に対して心から感謝申し上げます。
(島津理事記)



三沢地区集合写真



受賞者（ウーレヴァー少尉）（当時）と丸茂会長



受賞者（白石3曹）と丸茂会長

【関東地区表彰式(Yokota AB)】

3月10日（火）、令和7年度関東地区 JAAGA 表彰行事が横田基地において執り行われた。JAAGA からは丸茂会長のほか理事3名、航空自衛隊からは航空総隊司令官 谷嶋正仁空将、作戦運用隊司令兼横田基地司令 細川裕一1等空佐、第2輸送航空隊司令 二木裕和1等空佐、作戦情報隊副司令 平光康紀1等空佐、宇宙作戦群指揮所運用隊長 阿式俊英1等空佐など約30名、米軍からは第374空輸航空団司令官 マックエルハニー大佐を含む約10名が参加した。

令和7年度の米空軍側の受賞者は第374空輸航空団のシドニー・ウッドハウス上等空兵（SrA Sidney Woodhouse）であり、横田基地ハロウィン祭りへの児童養護施設の参加支援、地元清掃ボランティアへの主導的な参画、農薬及びプラスチック不使用の地元農業への参画、寄贈の車椅子を障害者に届ける活動等が、地域住民の理解促進による基地の安定的使用に繋がるものとして高く評価された。

航空自衛隊横田基地からの一人目の受賞者は作戦情報隊の池田綾子1等空曹であり、2024年度の横田基地准曹会会長として、サクラ・スプリング・フェスティバルでの交流支援、スペシャル・オリムピックスでの自衛隊ボランティアの割り当て、日米隊員と家族による清掃活動への参画、航空自衛隊納涼祭への米軍関係者の案内等における強力なリーダーシップが高く評価された。

二人目は、作戦システム運用隊の平沼知樹2等空曹であり、横田基地下士官グループでの各種イベントの企画立案への参画、フレンドシップ・フェスティバルでのボランティア活動への参画、米空軍専門能力開発センター主催の下級下士官基礎コースでの航空自衛隊の活動紹介等が相互理解の促進に貢献したとして高く評価された。

航空自衛隊入間基地からは、第2輸送航空隊の貝塚茂樹2等空曹が選出され、入間基地への第374空輸航空団の招待行事の企画立案と実行、スペシャル・オリムピックスでの大会運営の支援、第374空輸航空団の研修参加、米軍人とその家族との交流企画等により、部隊レベル及び個人レベルでの信頼関係構築に大きく貢献したことが高く評価された。

航空自衛隊府中基地からは、宇宙作戦群の田口嘉大1等空曹が選出され、在日米空軍服務指導下士官候補者シンポジウムでの相互理解の推進役、タリスマンセイバー25での宇宙作戦に係る共

同対処能力の向上、環太平洋地域若年下士官リーダーシップフォーラムでの意見交換の促進役等により、相互理解の促進に貢献したことが高く評価された。

表彰式は、冒頭の丸茂会長の挨拶で始まり、中東において命を落とした米軍兵士とその家族に対する哀悼の意を表した後、日米同盟の重要性、日米両部隊への敬意と感謝、受賞者への祝意と感謝、そして本行事に対する横田基地の積極的な支援に対する謝意を述べた。続いて、丸茂会長から日米の受賞者それぞれに表彰状と記念楯が授与され、その功績が称えられた。なお、米側受賞者のウッドハウス上等空兵は都合により不参加となったため、上司であるキャメロン・ブラックバーン軍曹が代理で参加し受賞挨拶を代読した。

来賓祝辞では、細川横田基地司令から受賞者に対するお祝いと感謝の言葉とともに、これまで以上の日米の「絆」の深化と「阿吽の呼吸」による対応の必要性を述べられた。また、演習中にも拘わらず出席したマックエルハニー司令官からは、受賞者の貢献と奉仕の精神が自由で開かれたインド太平洋地域の推進に極めて重要との認識が述べられ、より良い「ワン・コミュニティ（One Community）」のための受賞者の活動を讃えるとともに、JAAGA の活動への感謝の意が表された。

表彰式後の祝賀会食は、航空総隊司令官の挨拶に始まり、和やかな雰囲気の中で横田基地における日米交流行事の話題などで会話が盛り上がった。会食の終盤に日本側の受賞者 4 名から挨拶が行われ、全員が英語で見事な挨拶を行い、参加者から賞賛の拍手を浴びた。

会食の最後に、JAAGA 丸茂会長が参加者全員に対する感謝を述べるとともに、今年は JAAGA が創設 30 周年を迎えることを紹介した。本行事の開催にあたり、多大なるご尽力をいただいた関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。（増田理事記）



関東地区集合写真



受賞者代理(ブラックバーン軍曹)と丸茂会長



受賞者（池田 1 曹）と丸茂会長



受賞者（平沼 2 曹）と丸茂会長



受賞者（貝塚 2 曹）と丸茂会長



受賞者（田口 1 曹）と丸茂会長

【沖縄地区表彰式（Naha AB）】

3月4日（水）、令和7年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事が航空自衛隊那覇基地で実施された。

那覇基地における表彰行事は、主催者たる丸茂会長、丸野沖縄支部長をはじめ JAAGA 会員7名のほか、航空自衛隊から南西航空方面隊司令官 寺崎隆行空将、第9航空団司令兼那覇基地司令 霜田豊英空将補、嘉手納基地からは第18航空団第18任務支援群司令官 ロビンソン・R・マタ空軍大佐（Col. Robinson R. Mata）をはじめ、日米双方約40名にご臨席いただいた。

令和7年度の航空自衛隊側被表彰者は、那覇救難隊 中尾和宏 准空尉であり、航空救難員として日米共同訓練に数多く参加し、搜索救助に関する日米共同対処能力を向上させる等の功績が高く評価されての受賞となった。

また、米空軍側被表彰者は、第18航空団第718部隊支援中隊（718th Force Support Squadron, Kadena Air Base） ジャクリン・キャンシーノ 3等空曹（Staff Sergeant Jacqueline Cancino）であり、遺体安置業務専門家として、沖縄における遺体安置任務における相互運用性と卓越した運用を強化する等の功績が高く評価されての表彰となった。

表彰式は、恒例となった合同庁舎3階エントランス・ホールにおいて、厳かに実施された。

なお、第18航空団司令官 ギャレモア准将（BG. John B. Gallemore）は所用により出席が

なわなかったが、マタ第 18 任務支援群司令官が参加されるとともに、中尾准空尉は奥様を、キャンシーノ 3 等空曹は旦那様を伴われ、表彰式に参加された。

表彰式は、南西航空音楽隊員 5 名の管楽器による日米国歌の演奏から始まり、主催者として丸茂会長が挨拶した。挨拶冒頭、中東域における作戦で命を落とされた米軍隊員及びその家族に対する哀悼の意が述べられた。続いて、国際環境が一層厳しさを増し、日米同盟がますます重要となる中で、黙々と任務を果たしている日米両部隊への敬意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援への謝意が述べられた。挨拶に続き、丸茂会長から日米双方の被表彰者に表彰状を、その配偶者に記念楯を授与し、被表彰者の功績を讃えた。

次に、来賓として霜田那覇基地司令並びに米空軍を代表してマタ任務支援群司令官から祝辞が述べられた。両名からは、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、航空自衛隊と米空軍との間の絆強化の重要性、そして被表彰者の活動が仲間意識と団結をより一層強めていることについて、被表彰者への祝意と敬意が示された。

表彰式後の祝賀会は、丸野支部長の挨拶で始まり、出席者は那覇基地給養班が丹精込めて調理したカレーライスに舌鼓を打ちながら、終始和気あいあいとした雰囲気の中で受賞者を称え合った。最後に、那覇救難隊長 伊藤公士 2 等空佐から締め言葉の言葉をいただき、すべての行事は盛会のうちに終了した。

本行事の実施にあたり、ご尽力いただいた那覇基地及び嘉手納基地の関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

(荒木(哲)理事記)



那覇地区集合写真



受賞者（中尾准尉）と丸茂会長



受賞者（キャンシーノ 3 等空曹）と丸茂会長